

♪ ぽこ あ ぽこ ♪

♪ 2022年度 *poco a poco* ♪

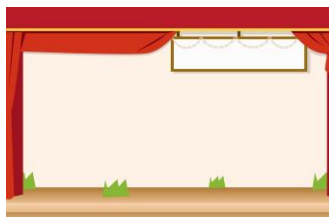
Nr. 14 2022年 10月17日(月)

文責:プファイル・辰巳

## 舞台の上でのびのびと!

～楽・幸・祭～ さあ、学校祭!

第38回学校祭が今週末に迫ってきました。体育館に舞台が設置され、照明器具も設置されると、「いよいよだなあ。」という感じがします。また最初の練習では恥ずかしそうにしていた子どもたちも、舞台の上で練習を重ねるにつれて、ぐんぐん上手になっていく様子が見えてきました。自信を持って本番の舞台に臨んで欲しいと思います。そして舞台の上でのびのびと自分らしさを表現してくれるのを、舞台袖から見守っています。



音楽こぼれ話 <その時、作曲家は... ⑪

### 歌曲王シューベルトの作品「魔王」>

シューベルトは1797年、ウィーン郊外で生まれたオーストリアを代表する作曲家です。数多い短命な作曲家の中でも特に短命で、亡くなった時は31歳。モーツァルトよりも短い生涯でした。その短い生涯の中で600曲以上の歌曲を作曲し、美しい歌の旋律だけではなく、高度な技術を要するピアノ伴奏も素晴らしいという、ドイツ芸術歌曲の基礎を築きました。そのため「歌曲の王」と呼ばれています。

学校教師であった父からヴァイオリンを教わり始めたフランツ少年は、すぐさま父の手には負えないほどの音楽的才能を発揮し、11歳で当時ウィーンのエリート校だったコンヴィクト(寄宿制神学校)の奨学生となりました。そして、美しいボーイソプラノで、王宮少年合唱団でも活躍しました。作曲の技法もこの頃学んだということです。

そんなフランツ・シューベルト、18歳の頃のことです。友人シュパウンの回想記によると、ある日シューベルトは文豪ゲーテの詩を部屋の中で歩き回りながら朗読していたそうです。その詩に大変感動した様子のシューベルトは、何度も朗読を繰り返すう

ちに、突然座り込んだかと思うと、猛烈な勢いで五線紙上に作曲をし始めたといえます。その場にはピアノがなかったようなのですが、シューベルトは頭に浮かんだメロディとピアノパートを、ものの数時間のうちに書き上げてしまったそうです。出来上がった作品を見て驚いた友人たちは、その楽譜を持って神学校のピアノ室へと走り、演奏してみても2度驚かされることとなります。



嵐の中を疾走する馬の足音を思わせる左手の連打で始まるピアノ前奏、一人の歌手が、語り手の他に父と子、そして魔王の4役を歌い分けるようになっている構成、強弱や調性の変化によるドラマチックな仕上がりなど、眼を見張るような作品だったといえます。

これが有名なゲーテの詩にシューベルトが作曲したドイツ歌曲の名曲「魔王」です。その名曲を10代のシューベルトが作曲したというのですから、現代の私たちも大いに驚かされる作品です。

中立的な語り手が話し始め、狡猾な言葉で死の世界へと息子を誘う魔王、その魔王の姿を見ることができず、不安に思いながらもひたすら宿への道を急ぐ父、魔王の姿と囁きに恐れおののく息子…。始めは甘い言葉を囁いていた魔王は途中で本性を発揮し、息子の恐怖は最高潮に達します。最後は息子のあっけない死で極めて印象的な曲の幕切れとなる「魔王」は、中学1年生の鑑賞教材として、日本の教科書でも取り上げられています。

友人たちや同時代の作曲家ベートーヴェンなど、シューベルトの真価を認めていた人たちもいましたが、生涯を通じてあまり幸運に恵まれないまま、31歳でシューベルトは世を去ります。シューベルトの亡くなる前年に、偉大なベートーヴェンも世を去っていました。ベートーヴェンを尊敬していたシューベルトは生前の希望通り、ベートーヴェンのお墓の隣に葬られたということです。始めヴェーリング墓地に埋葬され、後にウィーン中央墓地に移送された後も、ブラームスなどの音楽家たちが数多く眠る音楽家区域にベートーヴェンとシューベルトのお墓は並んで埋葬されています。

### ほんのちょっとだけ 演奏会情報

11月13日(日) アルテオーバー・モーツァルトホールにて

16時から

ファミリーコンサート <長靴をはいた猫>(6歳以上の子ども向け)

フランクフルト音楽大学学生による演奏とお話